

## ～利用者のかたの変化～

この1～2年の利用者の方の変化について書かせていただきます。

難病などで、妄想がひどく夜になると大声を出して暴れてしまうAさん。

以前は、警察を呼んだり、違う施設に移っていただくとはたらきかけたりという対応をしていました。しかし、Aさんが悪いわけではなくとても苦しい思いをしているんだ！ Aさんの妄想に私たちが戦おう！とガラッと対応を変え、「やめて！

Aさんをいじめないで！ ぶっとばすぞ！…」など壁に向かって妄想と戦うと、Aさんは「ありがとう」とお礼を言い、静かになったということが増えてきました。

Bさんは、排泄を失敗することが多く「出ちゃった」と言って職員に伝える日々でしたが、今はまったく失敗することなく自分でトイレに行っています。

最近入った職員は、昔の話しをすると「信じられません」と言い驚きます。どうしてなのか？ 答えははっきりわかりませんが、何かの要因があったのだと思います。利用者の方は、私たちの気持ち一つで、



Aさんが、七夕の短冊に書いた「みんなが幸せになりますように」

変わるということが実感できた出来事でした。

他にもたくさんあります。スタッフに助けってもらうことが多かったCさんは、自分でできるという自信を持つことができ頑張れるようになった。時々感情が押さえられず、暴れてしまうDさんは、しっかりと通所できる場所に変わり、生活のリズムが整ったのか、とても穏やかに過ごせ、作業所の旅行にも元気に参加されました。私たちが思っている以上に利用者みなさんは大きな力、変わる力をお持ちです。私たち周りの人々の思い、関わりで発揮できるのです。

## ～最後に・・・～

12月はクリスマス会を男女合同でやりました。玄関に写真が貼ってあるのでぜひ見てみて下さい。これからも、みなさんの声を聴きながら楽しいことなどの取り組みを進めていきます。

実は、有澤が、昨年9月より、日野の生活介護事業所「とちのみ」のサビ管になりました。障害事業部としては、やえざくらにも関わらせていただきますが、サビ管の貴嶋が、サビ管兼務の管理者となりました。

ご報告が遅れまして申し訳ありませんでした。今後ともどうぞよろしく願いいたします。



## ☆☆自己紹介☆☆ 貴嶋

お世話になっております。2023年12月入職して1年たちました。

20代で100名の知的障がい者更生施設に8年勤務し、居宅ヘルパー、障がい児支援ヘルパー、有料老人ホーム、認知症グループホームを経験し、障がい者GHのサビ管を3カ所勤務して今「やえざくら」でお世話になっております。

個人的には4人の子どもがいて長女が軽度の知的障害がありましたが、全く気が付かず自分の忙しさとストレスをぶつけてしまったことから、2次障がいを引き起こし「適応障害境界性パーソナリティ障害」で入院させてしまいました。想像を絶する壮絶な思春期で親子のコミュニケーションは壊滅し、藁をもつかむ思いで「親業」を学びました。不安定

な精神状態は10年以上続きその間、長女から人として親としてのダメ出しをくらい、反省の日々を送れたことから「少しは成長できたかなー。」とっている65歳真近の今日この頃です。

福祉の原点はやはり20歳代に務めた「the施設」の利用者さんたちです。閉鎖され人として扱われない時代で職員から虐待されていた方々は未熟な私に優しくて思いやりを持って接してくれて・・・だからその方々を普通の人として自由にする活動を同じ職場の仲間と行ってきました。その仲間の一人が「有澤部長」です。

なので、「あの時の原点を忘れることは無い」との思いで、安心できる暮らしの実現に頑張っています。